

— 映画は、歌劇、温泉と並んで、宝塚の顔の一つであった —
映画館があったことを、宝塚の「場所の記憶」として刻む

企画展「宝塚に映画館があった頃。」 開催

2023年1月29日（日）～ 2月26日（日）

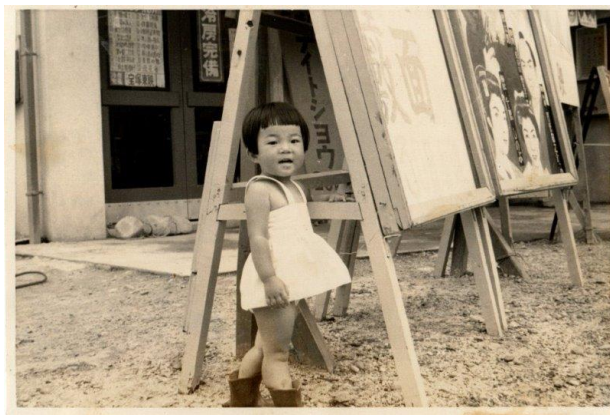
宝塚市立文化芸術センター（宝塚市武庫川町7-64）

宝塚市立文化芸術センター（所在地：兵庫県宝塚市/館長：加藤 義夫）は、**映画館が、歌劇や温泉と並んで宝塚の顔の一つだったことを、宝塚の「場所の記憶」として刻む**企画展「宝塚に映画館があった頃。」を、2023年1月29日（日）～ 2月26日（日）の1ヵ月にわたり開催いたします。

宝塚市は、1938（昭和13）年に武庫川町に映画撮影専用のスタジオが建てられ、戦後、1951（昭和26）年には宝塚映画製作所が設立されるなど、映画製作に縁の深いまちでした。

また昭和30年代、映画が最大の娯楽だった当時、宝塚には複数の映画館が同時に存在しており、上映告知ポスターや看板がずらりと並んでいるまちの風景がありました。しかし高度経済成長期を経て、テレビなどのメディアや娯楽の発展とともに、宝塚市から映画館が消え、1972（昭和47）年から約27年もの間、映画館が存在しませんでした。しかし、映画館を求める市民の声を受け、震災復興の再開発事業として1999（平成11）年に「シネ・ピピア」が誕生。今や多くの映画ファンが通う映画館として愛されています。

本展では、宝塚に映画館があった頃の公募写真の展示をはじめ、宝塚市立中央図書館に寄贈された懐かしい映画ポスターのコレクション、映画館跡地をマッピングした地図など、さまざまな**展示を通して映画館があった「場所の記憶」**を呼び起こし、人々の心に刻みます。また、シネ・ピピアの紹介では映写室や映画館内を記録した写真展示のほか、支配人 景山 理氏によるトークイベントも行います。



公募写真「宝塚東映前にて」1960年ごろ/個人蔵



映画ポスター「サザエさんの婚約旅行」
/宝塚市立中央図書館蔵

《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL : 06-6231-4426 FAX : 06-6231-4440 E-mail : takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL : <https://takarazuka-arts-center.jp>



◀ アクセス
QRコード

開催にあたり

— 映画は、歌劇、温泉等と並んで、宝塚の顔の一つであった。— ※1

1938（昭和13）年に大規模な映画専用のスタジオが武庫川町に建てられ、戦後、1951（昭和26）年には、阪急電鉄が全額出資した宝塚映画製作所が設立されました。2年ほどでスタジオの焼失に見舞われますが、1956（昭和31）年に東洋一とうたわれた撮影所がオープン。製作現場があることで、まちなかで出演者や映画関係者を見かけることもあったと言います。

関西の中心・大阪においては、映画館が最も多かったのが1959（昭和34）年。※2）

宝塚では同じ頃、JR宝塚駅から阪急宝塚南口駅あたりの一帯に複数の映画館があり、上映告知のポスターが貼られ、映画館の前には看板が立ち並び、まちの風景となっていました。人々の娯楽の中心であった映画館は、まちのランドマークとして存在していたのです。

時代が移り、人々の娯楽の中心は映画からテレビになり、YouTubeなどの動画配信・共有サイトに代わりました。今では、自宅にしながら廉価で映画を鑑賞することができるようになっています。では、未だなぜ、私たちは映画館に行くのでしょうか。宝塚では27年ほどの映画館がなかった時代を経て、1999（平成11）年、シネ・ピピアが阪急売布神社駅前に誕生しました。

本展では、映画館の上映ポスター、市民の方々から持ち寄られた、当時のまちの写真、震災復興の再開発事業として開館したシネ・ピピア、宝塚映画祭についてご紹介します。まちに映画館があったこと、そして今も映画を楽しむ文化が息づいていることを、宝塚の「場所の記憶」として刻む試みです。

※1『宝塚市大事典』P.383 ※2『昭和の映画絵看板』P.243

開催概要

タイトル：「宝塚に映画館があった頃。」

会 期：2023年1月29日（日）～2月26日（日）

休 館 日：毎週水曜日

開館時間：10：00～18：00（入場は17：30まで）※ただし1月29日（日）のみ13：00開場

会 場：宝塚市立文化芸術センター2階メインギャラリー

（〒665-0844 兵庫県宝塚市武庫川町7-64）

公式WEBサイト <https://takarazuka-arts-center.jp>

観 覧 料：一般（高校生以上）800円、中学生以下無料

※障がい者手帳提示でご本人様、付添の方1名まで無料

問い合わせ：宝塚市立文化芸術センター TEL:0797-62-6800

主 催：宝塚市立文化芸術センター（指定管理者：宝塚みらい創造ファクトリー）

特別協力：シネ・ピピア、宝塚市立中央図書館

協 力：公益財団法人阪急文化財団、公益財団法人宝塚市文化財団

後 援：神戸新聞社



アクセスQRコード

見どころ

歌劇、温泉、映画館があった宝塚。「場所の記憶」を共有する空間を創出。

歌劇や温泉に加え、最盛期には5館もの映画館が同時期に存在した宝塚。市民から持ち寄られたまちなみの公募写真展示をはじめ、宝塚市立中央図書館の映画ポスターコレクション、映画館跡地をマッピングした地図などから、映画館が数多くあった頃のまちの「場所の記憶」をたどります。また、27年間も映画館のないまちだった宝塚に、震災復興の再開発事業として開館した映画館「シネ・ピピア」も紹介。昔ながらの映写機や映画館内の記録写真なども展示し、宝塚と映画館の“記憶”を様々な角度から共有できる空間を創出します。

宝塚に映画館があった頃の様子が見える写真を募集。市民参加型の展示も。

本展の目玉展示の一つが、宝塚に映画館があった頃の様子が見える公募写真の展示です。宝塚市民をはじめ一般から広く募集し、古いものでは1950（昭和25）年ごろのまちの様子を撮影した写真もあります。様々な記憶が刻まれた写真を多くの来場者が観覧して、まちの記憶を共有し、宝塚の魅力に改めて気づく——そうした特別な体験ができるはずです。

宝塚にある唯一の映画館「シネ・ピピア」支配人のトークイベントを開催。

関連事業として、宝塚にある唯一の映画館「シネ・ピピア」支配人 景山 理氏によるトークイベント「シネ・ピピア誕生とふたつの映画館を運営すること」を開催します。聞き手は、尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズの西村 豪氏。宝塚における映画館の存在意義や、その魅力について語っていただきます。

関連イベント

〇パートナーズサロン「シネ・ピピア誕生とふたつの映画館を運営すること」

景山 理（シネ・ヌーヴォ代表、シネ・ピピア支配人）

聞き手／西村 豪（尼崎市立歴史博物館 あまがさきアーカイブズ）

開催日時：2023年2月4日（土）14：00～15：30

場 所：宝塚市立文化芸術センター メインガーデン内 ガーデンハウス

※定員20名 要予約、2022年度パートナー（有料会員）限定。

入場時に、パートナーの会員証をご提示ください。

パートナー入会については、当センター公式WEBサイトをご確認ください。

※予約方法 受付開始2023年1月10日（火）10：00から、宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイトの専用フォームよりお申込みください。

公式WEBサイト <https://takarazuka-arts-center.jp>



アクセスQRコード

展覧会構成

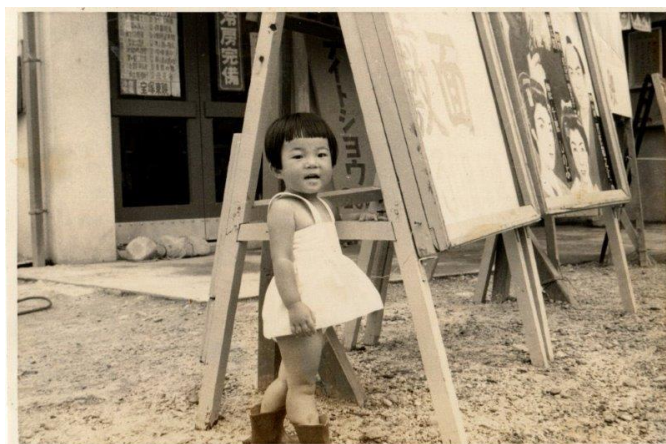
第一章 宝塚に映画館があった頃

第一章では、映画製作所に関する資料、まちの様子を捉えた写真や映像、新聞記事や航空写真から、映画館が最盛期だったころの宝塚の風景をご紹介します。また宝塚市立中央図書館所蔵の映画ポスターコレクションより、かつて映画館で上映されたポスターのうち、宝塚市内の映画館で上映された作品のポスターを中心に展示いたします。当時の風景を懐かしみ、あるいは思いを馳せることで呼び起こされる、キネマの都・宝塚の「場所の記憶」をご体感ください。

<主な展示内容>

映画館があった頃のまちなみ写真

一般の方より、宝塚に映画館があった 1945（昭和20）～1970（昭和45）年ごろの宝塚市内の映画館や商店街、まちの様子が分かる写真を募集しました。今回持ち寄られた写真を一挙公開します。



公募写真「宝塚東映前にて」1960年ごろ/個人蔵



公募写真「宝塚東映と市役所前市場の間にて」
1961年ごろ/個人蔵



公募写真「八尾宝塚薬局・栄町2丁目付近」
1960年代/個人蔵



公募写真「宝塚新芸劇場を背景に、ヘルスセンターが
建つ前の原っぱにて」1958年/個人蔵

映画館のレガシー

宝塚市立中央図書館に寄贈された映画ポスターコレクションより、宝塚の映画館で上映されたものを中心に展示します。



映画ポスター「サザエさんの婚約旅行」
/宝塚市立中央図書館蔵



映画ポスター「暖簾」
/宝塚市立中央図書館蔵



映画ポスター「元禄美少年記」
/宝塚市立中央図書館蔵



映画ポスター「地獄門」
/宝塚市立中央図書館蔵

この他、映画館があった頃の風景が分かる絵はがきなどの資料の展示や、宝塚映画製作所が1964（昭和39）年に製作した宝塚市の広報映像「花のたからづか」（約20分、公益財団法人阪急文化財団蔵）の上映などを行います。

展覧会構成

第二章 映画館の現在

第二章では、宝塚唯一の映画館である「シネ・ピピア」を写真でご覧いただくとともに、宝塚で紡がれた映画文化を今に伝える活動「宝塚映画祭」の歴史と取り組みを、ポスターなどの資料や映像を通してご紹介します。かつて大規模な映画製作所があり、複数の映画館があったことで育まれた映画への親しみや渴望——。それらが今も、宝塚というまちでの映画上映や鑑賞に繋がっています。未来に向けて紡がれていく、映画のまち・宝塚の「場所の記憶」をご高覧ください。

<主な展示内容>

シネ・ピピア誕生

1999（平成11）年に阪急宝塚線・売布神社駅前の「ピピアめふ」5階にオープンした、宝塚市内唯一の映画館「シネ・ピピア」。映写機や映画館内を記録した写真などを展示します。



「シネ・ピピア—映写室にて」2022年
/撮影：増田好郎



「シネ・ピピア—ある日のロビー」2022年
/撮影：増田好郎

宝塚映画祭

現在も「シネ・ピピア」を中心に毎年開催されている「宝塚映画祭」について、ガイドブックなど関係資料を展示します。

- (左)「第二十二回宝塚映画祭 関連資料」(一部)
2021年/宝塚映画祭実行委員会蔵
- (右)「第十二回宝塚映画祭 関連資料」(一部)
2011年/宝塚映画祭実行委員会蔵



《報道関係者お問い合わせ先》

宝塚市立文化芸術センター 広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂
TEL：06-6231-4426 FAX：06-6231-4440 E-mail：takarazuka@tm-office.co.jp

宝塚市立文化芸術センター公式WEBサイト
URL：<https://takarazuka-arts-center.jp>



◀アクセス
QRコード